

九月十七日	やいこ	家の好む食べ物
十月九日	節句	団子
七日又は八日	かれんて	かいもち
十一月二十日	えびすこ祝い	
中頃	あと祭り	餅 寿司
月中	報恩講	親類集まり餅等供応
十二月月中	秋休み	家の孫などで供応
計	十七回	十七日
		総計 二十五日半

## 女性の日々

「にやあ」と「かあ」と「ばあ」

嫁に来て母になると「にやあ」と呼ばれる。

何人か子供が出来て一家の重鎮になると「かあ」になる。

晩年は「ばあ」と呼ばれ、専ら畑仕事などして、家庭を

援助しつつ

、孫守りをしたのが平和な老後であった。  
「にやあ」の部

福嶋の昔は、何処へ行っても「機音」が聞こえるほどの機所であった。

また、機場で働いての現金収入は、唯一の現金収入であったので、若い母たちは進んで機業場の「二等工女」になるのが目的で、それこそ競い合って働いたものであった。

先ず機織り唄を紹介しよう。

その一

沖に白帆は 百九十九あり どれが殿御の 白帆やら  
昔思えば 今懐かしや なんで昔が 今でない

おれのおんまら 金沢師団 三十五連隊の その中に  
三十五連隊の 一中隊に おれのおんまら その頭  
雪はちらちら あんまは背戸に 火鉢やりたや 火を